



世帯数 6,059戸
人口 14,012人
(令和3.1.1現在)

令和3年 新年祝賀会を 開催しました

令和3年を迎え、1月4日、寿公民館において、新年祝賀会が3密対策を行ったうえで開催されました。



出席者は、松本市議会議員の今井ゆうすけ氏、上條一正氏、財産区議員・町会連合会・公民館長会・民生児童委員の皆さんほか、合計49名になりました。出席された方々は、全員寒空の下、寿公民館の正面玄関前に並び笑顔で記念撮影を行ってから祝賀会に入りました。

今年の祝賀会は新型コロナウイルスの影響から、新年の挨拶のみを行い、終了後は会食ではなくそれぞれお弁当を持ち帰っていただきました。

【寿公民館】

第32回 寿地区史跡めぐり

秋晴れの空のもと、今年で32回目となる寿地区史跡めぐりが10月31日に開催されました。今年度は百瀬地区の耳塚、百瀬陣屋跡、堀屋敷、百瀬諏訪神社、箱清水、正念寺を寿史談会顧問の青木教司先生、寿史談会会長の御子柴宏先生と巡りました。コロナ禍ということもあり、密にならないようにグループ分けをして感染対策を行いながらの開催となりました。

正念寺

今も百瀬地区の方々大切に守られている寺です。松本市重要文化財に指定されています。

この日は特別に本尊を開けて頂き、阿弥陀如来半跏像や釈迦涅槃図などを見せて頂きました。

百瀬陣屋跡

現在は周辺が開発され、土塁・土壁・屋敷の木は伐採さ

れてしまいましたが、門は松本市の文化財となつているため残されています。私が小学生の頃はまだ木々が生い茂つていて、御陣屋の北側の田んぼに冬は水を張つてスケートができるようにして小学校の体育の授業でスケートをしにきたのを懐かしく思い出しました。

地域再発見

普段は車で通り過ぎてしまふ場所に色々な歴史や文化があることをこの史跡めぐりを通じて知ることが出来ました。大人も子どもも自分の住んでいる町会以外の寿のことを知ることが出来、清々しい秋の空気の中ウォーキングも出来て楽しく健康的な時間でも過ごせました。



百瀬諏訪神社

今年参加出来なかつた方もぜひ来年は寿地区の史跡を巡ってみませんか？

【寿子ども会白姫地区

育成会長 遠藤 美佳】

寿地区人権学習講座 星に語りて Starry Sky

上映会

11月18日、寿地区福祉ひろばで人権映画の上映会を開催しました。寿地区人権啓発推進協議会、寿公民館、福祉ひろば、社会福祉法人アルプス福祉会の主催で午前・午後、夜の部と3回上映され、合計61名の方々にご参加いただきました。

上映前には、公民館の百瀬康雄館長からの挨拶と社会法人アルプス福祉会の片桐政勝さんから映画の内容ときょうさん（共同作業所全国連絡会）のご説明をいただきました。

上映された映画はきょうさんが結成40周年を記念して製作された映画で、東日本大震災を背景に災害で被災した障がい者と支援者たちの活動を、実話をもとに描いたヒューマンドラマです。

障がい者と周囲の人々が助け合う場面もあり、上映後参加者の方は「1人でなく、皆の協力で困難を乗り越える力が生まれると感じた」と感想を述べられました。

【寿公民館】

192サロン オリジナルグッズを つくろう！

12月15日 午前10時から、寿児童センター・集いの広場において、「消しゴムハンコでオリジナルグッズを作ろう！」と題して、子育て支援192サロンが開催されました。



子育て支援192サロン運営委員会が、寿公民館、寿児童センター等の協力いただきながら、開催しているものですが、コロナ禍のなか、何回かの中止をはさみながら、感染防止に十分配慮しながらの開催となりました。

親子で30分間隔程度の時間を開けてそれぞれ十組程度ずつ集まり、おかあさんは、持参した小物に、消しゴムで作ったハンコを押してかわいく飾り付けをしていきます。クリスマスに向けての小物を用意してきたおかあさんもおいでになり、楽しい時間を過ごしました。

こどもは、おかあさんがグッズを作る間、別室で託児ボランティアの皆さんと楽しく遊びながら、待っていました。

【館報編集委員 上平 貴明】

わがまちの「茶々」の会

百瀬町会には、「こんな処があったらいいな」との住民の声で、平成28年3月に当時の民生・児童委員の活動の中から生まれた、町会独自の「ミニティサロ」、百瀬町会ふれあいひろば「茶々」があります。住民が気軽に集まって「ティーやお茶を飲みながら、地域の方々と楽しく交流ができる憩いの場」として、町会の公民館活動の環で、毎月第4水曜日の午前中にハリアリーの百瀬第一公民館で開催しています。

内容は、生涯スポーツ指導者の指導のもと、10分間の軽めの体操から始まり、その都度100円の参加費でスタッフの用意した「ティーやお菓子を頂きながら、おしゃべりして、ゆったりと楽しい時間を過ごしています。

参加者はスタッフを含め50名程が集います。5年目を迎える今年に入り、新型コロナウイルスの影響を受けて、2〜5月は安全の為にやむなく中止にしましたが、自粛期間中にみんなに会えるこの場が参加者の皆さんの元気の源になっていることを再確認し、再開を待ちわびている方々の為にもできることが



リズムで脳トレ

ら始めようと、有志でマスク作りをして6月に配布しました。

その後は、終息の見えないコロナの中ではありますが、近隣の感染状況を見ながら出来る限りの安全対策をして、開催する方向にしています。

時にはゲストを招いたイベント等企画していますが、9月から新しい試みとして、誰でも参加できるフリーマーケットコーナーを設け、手芸品や農産物を提供して頂き購入できるお楽しみ企画が加わりました。

町会の支え合い活動の起点として続けていられるのは、参加者は勿論、町会やボランティアの方々の協力体制にあります。それぞれの立場で出来ることを持ち寄って、皆さんで盛り上げてくれています。

お隣や近所の関わりが薄れてきている今、家にあるよりも地域に出る事で、顔見知りが増え、活動の幅も広がり元気に過ごせることがふれあいの場を通して解ります。

町会事業でも住民との距離が縮まり、地域の困り事や要望を気軽に相談でき、自分たちの住む地域が安心、安全な住みよい街になるよう、皆で考える場所になっていきます。

【茶々の会実行委員 百瀬さん】

エピソードで綴る寿の歴史 百瀬陣屋を一揆と浪人から守れ

歴史の教科書には書いていないような展開が慶応年間に百瀬知行所で起っています。百瀬陣屋は旗本諏訪氏の千石の知行地で領主は江戸屋敷に住み、百瀬に陣屋を置いて収納と民政の統治を行っていました。陣屋のスタッフは慶応4年(1868)では代官と子息の代官見習、下役2名と非常勤の下役1名の計5名です。代官父子は武士ですが下役は自分の土地を持ち足軽として陣屋に採用されている農民もいました。

さて、慶応2年(1866)8月上旬の台風で秋の稲の収穫が見込めなくなると松本藩は穀留を行い、穀類の移動を禁止しました。これに伴って商人による買い占めが噂され米価は気に高騰しました。松本平からの送米に頼る木曾谷の人々は絶望的な不安に陥り、遂に8月17日夜、洗馬宿で蜂起します。木曾騒動と呼ばれる世直し揆です。この第一派は買い占めの張本人とされた上神林村野口庄三郎家を目指して押し寄せ、途中打ち毀しや米證文を取ったりして、野口家を焼き打ちします。

翌18日朝、第二派として、木曾川方面から500〜600人が洗馬宿から塩尻大門・棧敷南熊井・北熊井・内田・赤木と五千石街道を打毀しや、焼き討ちをしながら北上してきました。

この時、松本藩は長州征伐で広島へ向かっており主力を欠き初動対応がやや遅れたこともあり松本平南部は無政府状態に置かれます。百瀬陣屋は村役人を洗馬や塩尻に向かせ情報収集に当たり、陣屋と御蔵の御囲米(備蓄米)を守るため、一揆勢が赤木村へ侵入し知行所向かうかもしれないという知らせを受けると、百瀬正念寺の早鐘を突かせます。5力村の村役人は各村の男役の工夫を引き連れ陣屋へ駆けつけ門前を固めました。幸いなことに一揆勢は赤木下の宮北の小池境より村井宿方面に向い事なきを得ました。一揆は村井宿で待ち構えていた松本藩兵に鉄炮を撃ちかけられ退散しています。農民の力を借りて陣屋を守ったという事です。こうしてみると旗本領の陣屋の武備はほぼ考えられていなかったことがわかります。

同様な出来事が慶応4(1868)2月に起きます。鳥羽伏見の戦の後、官軍先鋒として公卿高松村実村隊が2月6日上諏訪に入ります。また、よく知られて

いる相楽総三の赤報隊も同日下諏訪に入ってきました。2月10日、実村が甲府城を受け取った直後「東山道鎮撫総督」から信濃諸藩へ高松隊は偽勅使であるとの布告文が届き、高松隊は17日武装解除させられます。百瀬陣屋の代官は2月15日高島表に出掛け高嶋藩の混乱と溢れる浪人達を目の当たりにし、子息近藤多仲に手紙を送ります。「高島には乱暴者が入り込み残党が知行所を襲うかもしれない。下役は昼夜鉄炮を用意して詰め、領内の英気の者に獵師鉄炮を持参させ詰めさせる事。村々も正念寺の早鐘がなったら駆付けするように取りはからえ」という内容です。すぐ17名の若者が集められました。彼らは鉄炮、鷹口、六尺棒、手鎗等を持参し18日朝まで詰めています。何事もありませんでしたがここでも農民の力を借りて万が一に備えました。



旧百瀬陣屋の門 (松本市史跡)

【寿史談会顧問 青木教司】
史料「慶応四年御用日記控」